

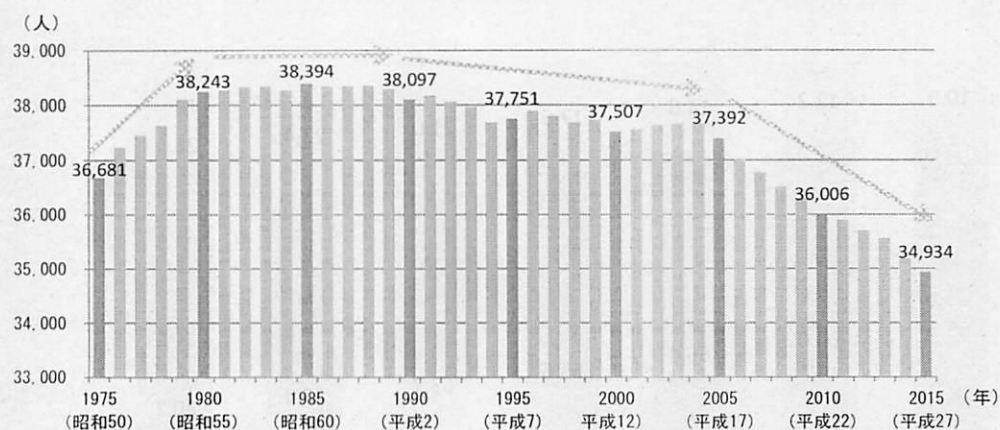
1. 本市の人口動向分析

【基礎資料】

(1) 総人口の推移

1980（昭和55）年頃まで大きく増加し、1985（昭和60）年の38,394人を最大として、1989（平成1）年頃まで横ばいとなっていたが、その後徐々に減少し始め、2005（平成17）年頃から人口が大きく減少しつづけ、2015（平成27）年3月31日現在で、34,934人となっている。

■総人口の推移

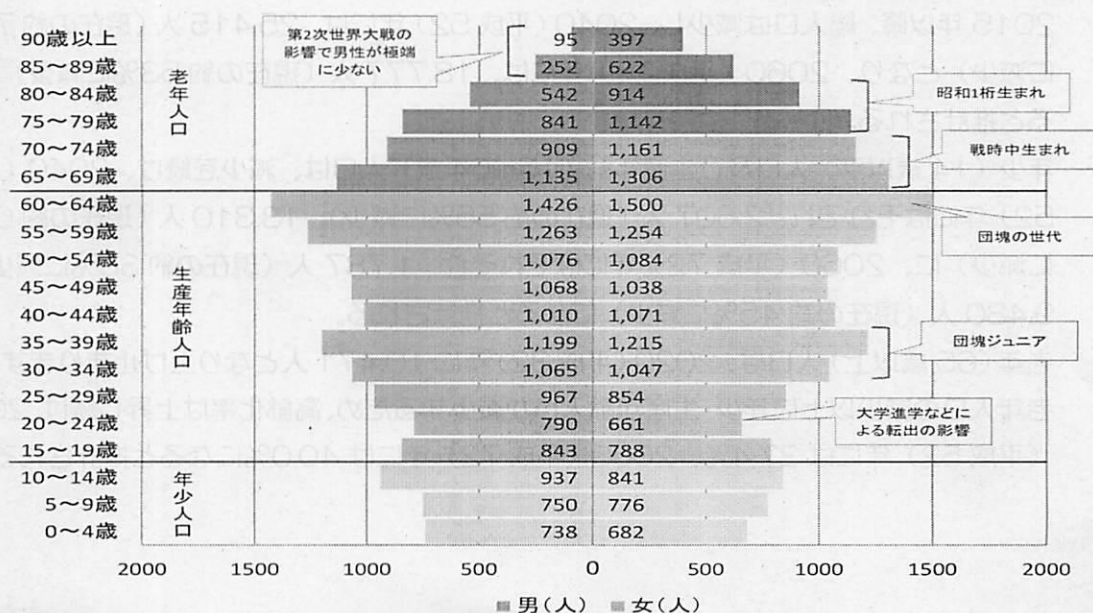


資料：住民基本台帳 注）外国人人口は含んでいません。

(2) 人口の現状

平成22年現在での本市の人口ピラミッドをみると、老年人口はそれほど多くはないものの、現在では団塊の世代が老年人口となるなど、徐々に老年人口の割合が高くなっている。20歳代では、大学進学や就職などによる転出の影響で極端に少なくなり、さらに団塊ジュニアの次の世代が今後出産世代となるが、出産世代の人口が大きく減少してきているため、年少人口がさらに減少することが予想され、今後の人口ピラミッドは逆三角形に近づいていくと考えられます。

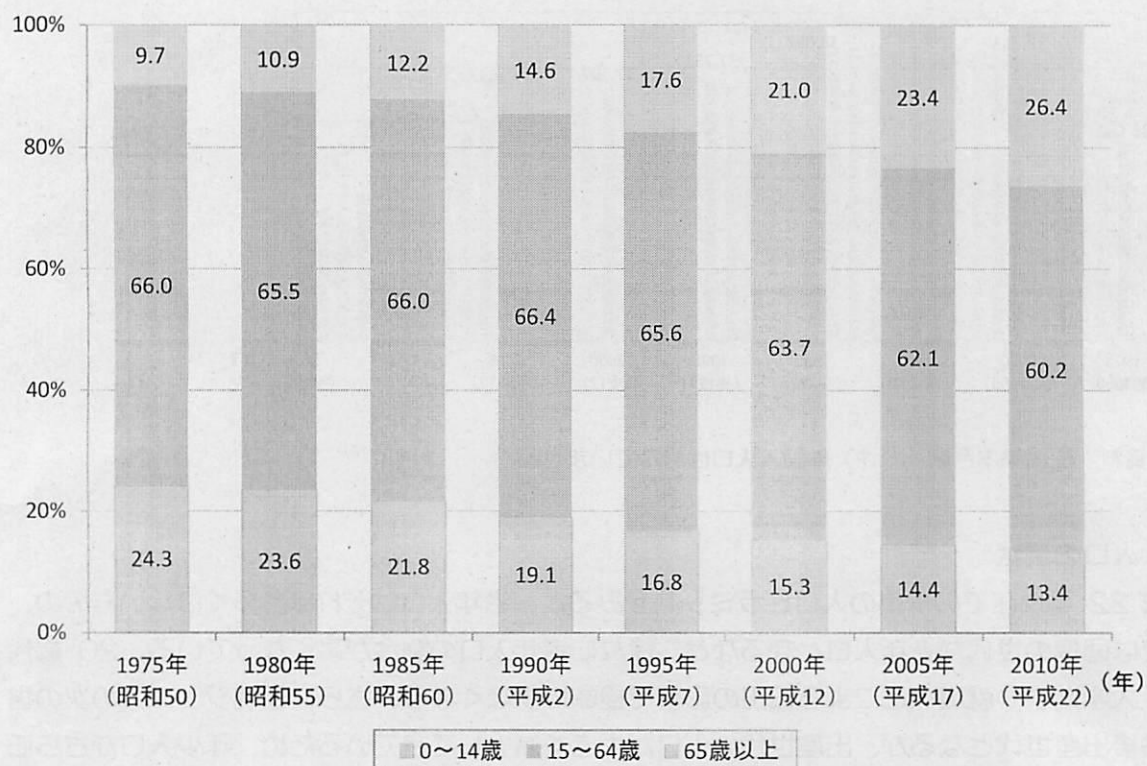
■人口ピラミッド 2010（平成22）年



(3) 年齢3区分別人口の推移

年齢3区分別人口割合の推移をみると、1975（昭和50）年と比べ2010（平成22）年は、年少人口（0～14歳）人口割合が減少（24.3%⇒13.4%）、生産年齢人口（15～64歳）が微減（66.0%⇒60.2%）、老年人口（65歳以上）が増加（9.7%⇒26.4%）しており、着実に少子高齢化が進行している。

■年齢3区分別人口割合の推移

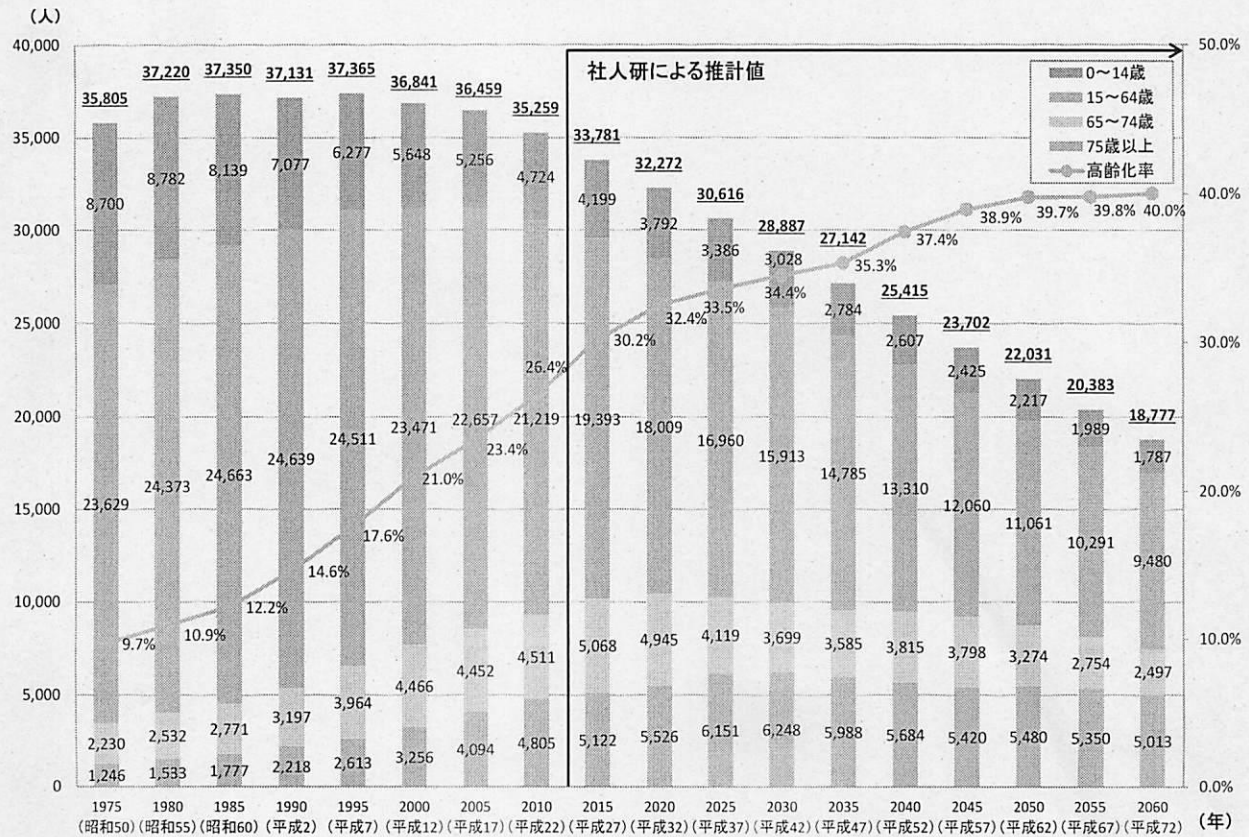


2. 人口推計

総人口・年齢区分別人口の推計

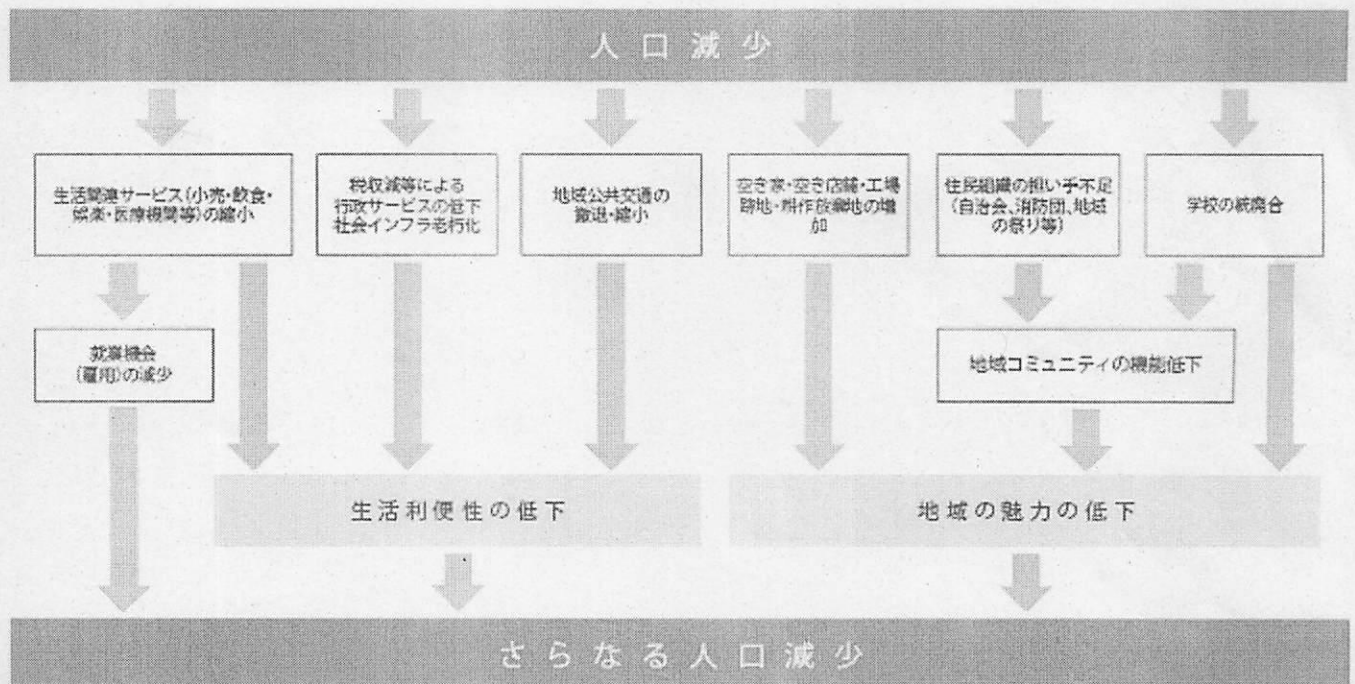
- ・ 2015年以降、総人口は減少し、2040（平成52）年には、25,415人（現在の約72%に減少）となり、2060（平成72）年には、18,777人（現在の約53%に減少）になると推計される。
- ・ 年少（14歳以下）人口及び生産年齢（15～64歳）人口は、減少を続け、2040（平成52）年にはそれぞれ、2,607人（現在の約55%に減少）、13,310人（現在の約63%に減少）に、2060（平成72）年にはそれぞれ、1,787人（現在の約38%に減少）、9,480人（現在の約45%に減少）になると推計される。
- ・ 老年（65歳以上）人口は、2020（平成32）年に10,471人となり上げ止まりますが、老年人口の減少以上に年少・生産年齢人口が減少するため、高齢化率は上昇し続け、2040（平成52）年には37.4%、2060（平成72）年には40.0%になると推計される。

■年齢3区分別人口の推移



注) 2010 (平成 22) 年までは国勢調査による実績値、2015 (平成 27) 年以降は社人研による推計値から算出しています。ただし、2045 (平成 57) 年以降は社人研による推計に準拠しています。

人口の変化が地域の将来に与える影響



資料) 国土交通省